



過去へタイムスリップ、江戸から昭和の道具を観察。

高梁市郷土資料館は、1904年(明治37年)建築の旧高梁尋常高等小学校の本館を活用し、1978年(昭和53年)4月に開館しました。

建物は地元臥牛山の良質なモミ材を使い丁寧な施工がされており、100年以上経過した現在でも大きな狂いがありません。

2階の講堂は格子状で天井が高く、明治時代の教育にかけた情熱を感じることができます。

明治期の代表的な建造物として1973年(昭和48年)に高梁市重要文化財に指定されています。

館内には生活用具、農耕機具など約3000点を収集・展示しています。

◆ 施設のおすすめ

本館の展示室は1階と2階に分かれており1階には江戸時代末期から昭和にかけて日常生活で使われていた日用品や時計などが数多く展示されています。「農業の間」と「商業の間」では当時の様子を再現しており、生活の雰囲気を感じることができます。

2階では高梁川を往来していた高瀬舟の模型やお祭りで使われていた千載楽、地域の特産物であった煙草と麦稈真田などの生産・製造に関する資料と農具を展示し、観察することができます。これらの道具をどう使っていたのか、想像しながら館内を見て回ると楽しめます。

◆ 子どもたちへのメッセージ

建てられて100年以上が経った貴重な建物の中で、今では見なくなってしまった道具を数多く展示しています。これらの道具を当時はどうやって使っていたのか、現在ではどういった道具に入れ替わっているのかななどを、考えてもらえると当時の人々がどのように生活を送っていたのか感じてもらえると思います。



かいてんじじつ 1階展示室



にちようひん かずかず 日用品の数々



しゅるい かべか どけい さまざまな種類の壁掛け時計



たかせぶね ほ 高瀬舟の帆



たかせぶね もけい 高瀬舟の模型



まつ つか せんざいらく お祭りで使われた千載楽



て こ こうしじょう てんじょう 手の込んだ格子状の天井